

東日本女性登山交流集会
山形県 最上町

「しなげよう 仲間と希望の輪」
なぐららぼ集会」

2012年10月13日(土)
～14日(日)

100名の参加者が東北に集うと聞いていましたが、何と200名超の参加者と聞いてびっくりしました。初めて乗った陸羽東線の赤倉温泉駅を降りると、迎えるのバスで会場の阿部旅館へ人数が多いので、軒の旅館に分宿するそうです。既に会場は地元の物産や山道具の店で賑わっていました。

一三時に開会し、池田敏美さんのヴァイオリンコンサートの妙なる調べで始まりました。その後山形県連の実行委員長の「よつこそ山形へこの度の集いが皆さんの思い出の会になりますよ」との挨拶があり、藤元芳山女性委員長長の挨拶、最上町長や最上観光協会会長の歓迎の挨拶があり、講演に入りました。

先ず鶴見大学准教授・日本登山医学会理事の野口いづみ氏が病氣と怪我の経験例から学ぶ安全登山』と題して実例に基づいた対処法などを、分り易く説明して

下さいました。山での突然死は平地のそれより2.5倍だとか。事実、私も山スキー中に目の前で頑健な方が心臓発作で亡くなるという経験もあり、今は持病がありませんが、高齢になっているので他人事ではないと思いましたが次に「神室山系の自然を守る会」の高桑順一氏の熱意のこもったお話がありました。

休憩を挟み、石田良恵氏の「山筋ゴトゴト体操」を教わりました。広い会場ですが隣の人とぶつからないようにするのが大変です。

その後立食パーティ、交流会となり、他の会の方ともお話が出来、特に私達の会はお揃いの二十年記念の赤シャツを着ていたので、Tシャツをほめられました。東北の会員の花笠首頭や盆踊りで会場は一気に盛り上がり、各会が唄を披露したり紹介され、夜は更けて行きました。

こんなに大勢が最上町に集い、地元の方の協力があったのですが、役員の方達の準備のご苦労は大変なものだったと思います。私も皆さんからパワーを貰って明日の神室山の登山も頑張ろうと思いました。

新座山の会

加々良敏枝 記



交流登山 禿岳

(かむろだけ)1261m

「コスタタイム

あへ旅館6:30 花立登山

口7:30 禿岳頂上9:40

～10:00

花立登山口11:35

あへ旅館12:40

禿岳(通称ムカムロ)への参加者は一番多い86名の参加です。

あへ旅館からバスに分乗して花立登山口へ向かう。

グループ毎に分かれる。埼玉は「北本山の会」「蔵山の会」、福島は「相馬山歩会」

10名で出発です。長い列です。又目辺からブナ林の急斜面を登る。

多勢なのでゆっくり楽しみながら登る。途中の尾根から見る景色はスイスのアルプスのようだ。9合目の不動明王の石祠をすぎると頂上だ。

山頂の展望は見事だ。澄み渡った空に神室連峰や鳥海山、明日登る栗駒山も眺望できる。紅葉も素晴らしい。

下山は同じ道を辿る。途中何人かのグループに会う。地元の方たちには絶好の登山コースのようだ。

バスの中では石巻、大槌町の方の話伺いました。すべて津波で流されつらい日々が続いたが、ザックや何もかも差し入れていただき、このように参加できた。芳山の会員で良かった。又、山に行こうと気持ちが出てきた。

私たちは陰ながらしか応援できませんが、被災地の復興は遅時として進まない。

山形で女性登山交流集會に参加し、東北の方々と交流できたのは良かったです。

北本山の会 諏訪光子 記

